

客観的臨床能力試験の実施と評価－クリニカルラダーの各レベルからみた評価－
平松美奈子1、中嶋真知子1、大川智美1、大澤智美1、橋元春美1、倉ヶ市絵美佳2
京都府立医科大学附属病院 看護部1、京都府立医科大学看護実践キャリアセンター2

【目的】

A大学附属病院では、クリニカルラダーの看護実践能力の評価のひとつとして、客観的臨床能力試験（以下OSCEとする）を実施している。本研究の目的はクリニカルラダーの各レベルによるOSCEの評価と完遂率を分析し、今後の課題を明らかにすることである。

【方法】

対象は、クリニカルラダーレベル1（以下レベル1）を受審した卒後1年目の看護師49名と、クリニカルラダーレベル2（以下レベル2）を受審した卒後2年目の看護師40名、クリニカルラダーレベル3（以下レベル3）を受審した卒後3年目の看護師46名の計135名で、期間（OSCE実施期間）は2011年10月7日（レベル3）、11月2日（レベル2）、12月16日（レベル1）とした。調査方法（評価方法）は7つの評価領域（必要な知識、状態把握と判断、コミュニケーション、説明と同意、正確な看護技術、安全管理、感染管理）を設定し、レベル1では26項目、レベル2では29項目、レベル3では27項目の評価項目で構成した。評価基準は3段階評価（適切に行えた（5点）、一部適切に行えなかった、または支援を受けて行えた（3点）、適切に行えなかった（0点））と、2段階評価（適切に行えた（2点）、適切に行えなかった（0点））とした。評価者は2名で看護師長と大学教員が行った。

4. 分析方法：評価点を集計し、各レベル別に平均得点と、完遂率を算出した。

5. 倫理的配慮：研究目的・データの非特定化及びOSCEの成績には関係しないこと等を実施前に口頭と書面で説明し同意を得た。

<OSCEの到達目標>レベル1（患者の訴えから優先順位の判断を行い必要な対応ができる）、レベル2（急変患者のフィジカルアセスメントを行い必要な対応ができる）、レベル3（急変時リーダーシップをとりながら適切な対応ができる）

【結果】

1. 平均得点はレベル1が、70.6 ± 11.8 点 (M ± SD)、レベル2が、70.0 ± 9.7 点、レベル3が、73.9 ± 10.8 点であった。
2. 完遂率は、レベル1が37.5%、レベル2が72.5%、レベル3が84.8%であった。

【考察】

クリニカルラダーの各レベルの平均得点に大きな差は見られなかったが、3つのレベルのうち、レベル1では、完遂率が顕著に低かった。これは、1年目という経験の少なさと、OSCEの技術項目を複数の構成（血糖測定、鎮痛剤投与）としていた事が影響しているものと考えられる。OSCEの到達目標および課題設定の内容を今後検討していく必要がある。本報告は文部科学省平成21年度助成事業「看護師キャリアシステム構築プラン」の一部である。